

「日本・ルーマニア外交関係再開50周年記念シンポジウム」における  
雨宮大使スピーチ  
「日本・ルーマニア関係の現状と展望」

平成21年11月25日  
於：ティトウレスク欧州基金

ナスターセ・ティトウレスク欧州基金理事長、  
コステア外務次官、  
ご列席の皆様、

本日、「日本・ルーマニア外交関係再開50周年記念シンポジウム」の開催にあたり、ここ由緒あるティトウレスク欧州基金に於いてお話する機会を得たことは、光栄であります。ルーマニア側関係者の皆様に感謝いたします。

皆様、

本年は、日本とルーマニアそれぞれの国にとっても、また、両国関係にとっても大変記念すべき年であります。即ち、日本では天皇皇后両陛下御成婚満50年であると同時に、天皇皇后両陛下御在位満20年という記念すべき年であります。他方、ルーマニアにとっても、ワラキア及びモルドバ公国の統一から150年、1989年の「革命」から20年という記念すべき年であります。さらに、日本・ルーマニア両国関係にとっても、1959年に外交関係を再開してから50周年という記念すべき年にあたります。

日本とルーマニアの交流の始まりは、1902年に牧野駐ウィーン日本国特命全権公使がギカ駐ウィーン・ルーマニア特命全権公使に対し、日本及びルーマニア間の外交関係樹立希望を表明した書面を送付したことに始まります。その後、1921年にはルーマニア特命全権公使が東京に、1922年には日本国特命全権公使がブカレストにそれぞれ着任しています。第二次世界大戦中の1944年に日本とルーマニアの外交関係は一時的に断絶されましたが、戦後1959年9月1日に両国の外交関係が回復されました。

我が国は、この「日本・ルーマニア外交関係再開50周年」という記念すべき本年を、同様に周年を迎えるオーストリア、ハンガリー、ブルガリ

アといった他のドナウ流域3カ国とともに「日本・ドナウ交流年2009」と銘打って、多彩な各種記念事業を実施してきております。ルーマニアでは、2月に当地で初公演となる能楽公演がブカレスト国立劇場にて開催されたのを皮切りに、毎月数多くの日本関連行事が開催されてきました。特筆すべきは、5月に秋篠宮同妃両殿下がルーマニアを御訪問され、バセスク大統領への御表敬をはじめとして、ブカレスト大学日本語関係者との御懇談、農村博物館への桜の木御植樹等、数多くの日本とルーマニアの友好関係を深める行事が行われたことでしょう。また、6月には海上自衛隊遠洋練習艦隊がコンスタンツァ港に初寄港し、艦上レセプション、艦内一般公開、練習艦隊音楽隊とルーマニア海軍音楽隊との合同演奏会等、数多くの友好親善行事が実施されました。さらに、「日本・ルーマニア外交関係再開50周年」記念日である9月1日より、ルーマニア国民に対する査証免除措置が試行的に実施されました。本措置により今後日本とルーマニア両国間の商業・観光面等での交流がより活発化することが期待されます。

日本とルーマニアの間では、長年に渡り政治、経済、経済協力、文化等の様々な分野で活発な交流が行われており、心と心が触れ合う関係が息づいています。

政治面では、両国は伝統的に友好関係にあるだけでなく、自由や民主主義といった基本的な価値観を共有する重要なパートナーとして、地域や国際社会の課題についても緊密に協力していることを強調したいと思えます。ルーマニアは、1989年の「革命」後、40年以上に及ぶ共産主義政権からの体制転換をなしとげ、幾多の痛みを伴う改革を乗り越えながら悲願であったNATO、EU加盟を実現しました。現在では、南東欧地域の安定勢力として、さらに、NATO及びEUの東端としての地政学的重要性が増大しているほか、イラクやアフガニスタン等における平和と安定のために積極的に軍事的貢献を行ったり、EU内においても加盟27カ国中7番目の議席数・投票数を活かして積極的に意思決定に貢献するなど、その国際的地位を向上させています。このようなルーマニアと、二国間の問題だけでなく、経済危機、気候変動、核軍縮・不拡散、平和構築・開発・貧困の問題等共通の国際的課題についても活発に対話を行い、共に取り組んでいくことは大変有意義なことであり、今後とも積極的に続けていきたいと考えております。既に両国外務省間では政務協議、軍縮不拡散協議といったハイレベルの対話が活発に行われておりますが、今後とも様々な分野でこのようなハイレベルの対話を発展・深化させていく所存です。

経済面では、ルーマニアにおける我が国製造業のプレゼンスは徐々に高まってきており、自動車部品関連等を中心に、17社24工場が合計2万人以上のルーマニア人を雇用しています。また、近年、両国間の経済閣僚や経済ミッションの往来も相次いで行われており、さらに、両国商工会議所間の協力を模索する動きもあると聞いており、このような経済交流が、今後の両国経済関係の更なる発展につながることを期待します。そのためにも、インフラ整備を含め、ルーマニアの一層の投資環境整備を希望します。

経済協力の面では、1989年12月のルーマニアの「革命」以降、我が国は民主化、市場経済化へ向けたルーマニアの改革努力を後押しするために、インフラ整備、産業育成、貿易・投資促進、環境分野等で有償資金協力、無償資金協力、技術協力等のODAによる支援を行ってきました。2007年1月のルーマニアのEU加盟を、ルーマニアの体制移行の完了及び経済水準の上昇を象徴するものとして歓迎します。こうしたルーマニアの経済社会発展に鑑み、本年3月には青年海外協力隊（JOCV）派遣を含む技術協力が終了しました。今後は、ルーマニアのドナー化努力を支援すべく、日本側の援助スキームの有用性等について理解を図れるような協力を促進していきたいと考えます。

文化面では、こちらに来てからルーマニア人の日本語・日本文化に対する関心の高さに正直驚かされました。このような関心の高さに応えるべく、少しでも多くの良質な日本文化を紹介する機会や日本語学習の機会等を提供することが自分の務めだと思えます。本年より、アニメ、マンガ等のポップカルチャーや伝統文化を含む日本文化を紹介しつつ日本語を教えるボランティアをルーマニア各地の教育機関・NGOに派遣する「日本文化発信プログラム」がスタートしており、日本人とルーマニア人との間で草の根レベルでの交流が活発に行われています。また、本周年においては約50件の各種文化行事を実施しており、11月30日にはオデオン劇場において本周年クロージングイベントとして「新内節浄瑠璃と八王子車人形」公演の開催を予定しています。さらに、12月23日には、ルーマニア国営テレビ局（TVR）において「日本・ドナウ交流年2009」記念番組が放映予定であるところ、是非ご鑑賞いただきたいと考えております。今後は、日本とルーマニアの間の知的交流の促進といった両国関係の将来を見据えた長期的な視点にたった事業にも取り組んでいきたいと考えて

おります。本年の交流年を契機に、文化交流はもとより、様々な分野における両国関係がより一層発展することを期待します。

皆様、

日本では、この8月の総選挙の結果、日本に民主主義が定着してから実質的に初めて政権交代が実現し、鳩山内閣が発足しました。鳩山総理は、所信表明演説及び第64回国連総会における一般討論演説の中で、「架け橋としての日本」とのコンセプトの下、日本が架け橋となって挑むべき5つの挑戦として、世界的な経済危機への対処、気候変動問題への取組み、核軍縮・不拡散に向けた挑戦、平和構築・開発・貧困の問題、東アジア共同体の構築という挑戦につき言及し、これらの課題に全力で取り組んでいく考えであることを述べています。また、鳩山総理の政治哲学である「友愛」思想は、「自分の自由と自分の人格の尊厳を尊重すると同時に、他人の自由と他人の人格の尊厳をも尊重する」との考え方ですが、これは「汎ヨーロッパ主義」を著し、「EUの父」とも呼ばれたリヒャルト・クーデンホーフ・カレルギーの思想に影響を受けた祖父鳩山一郎元総理から総理が受け継いだものであり、欧州指導者の考えと通じるものがあると思います。

ルーマニアでも、12月6日に大統領選挙の決戦投票が行われ、その後新たな政権が発足すると理解しております。日本としては新たな鳩山体制の下、ルーマニアの新たな政権と両国関係の更なる発展及び国際社会が直面する様々な課題に共に取り組んでいく所存です。

ご清聴ありがとうございました。